

令和6年度 第1回健康づくり支援部会 議事録

日 時：令和6年10月18日（水）19時55分～20時20分

場 所：市役所本庁舎10階 第3会議室

○会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - （1）部会長の選出
 - （2）副部会長の選出
 - （3）前回会議の議事録（案）の確認
 - （4）令和5年度 健康推進課決算について
 - （5）令和5年度 保健事業について
 - （6）第二期けんこう帯広21の実施状況について
 - （7）その他
- 3 閉会

○出席委員

吉村典子委員、三品正則委員、金須俊雄委員、川岸仁専門委員、酒井國夫専門委員、高玉裕子専門委員

○事務局

健康保険室	佐藤室長
健康保険室健康推進課	城岡課長補佐、長谷川係長

○会議録

○事務局

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので、はじめさせていただきます。

開会に先立ちまして、委員及び専門委員が改選され、はじめての会議となります。今回委嘱された方もいらっしゃいますので、自己紹介をお願いいたします。

○各委員

（自己紹介）

○事務局

次に、健康づくり支援部会を担当する市民福祉部健康推進課職員を紹介させていただきます。

○事務局職員

（自己紹介）

○事務局

それではただいまより、令和6年度第1回健康づくり支援部会を始めさせていただきます。

本日は健康づくり支援部会、委員9名中、6名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。

議事(1)(2)

○事務局

委員、専門委員の改選により部会長が不在になりましたので、部会長が選出されるまでの間、私が進行役を務めさせていただきます。

部会長の選出は、帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第3条第4項の規定により、当該専門部に所属する委員及び専門委員の選挙により定めることとされています。

この度は、部会長の選出について、事務局より推選をさせていただきたいと思います。事前に内諾をいただいております帯広市医師会の理事である吉田委員を推選したいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○事務局

ご異議なしということですので、本日欠席ではありますが、部会長は吉田委員にお願いしたいと思います。本来であれば、部会長から、一言ご挨拶をお願いしておりますが、欠席のため省略させていただきます。また副部会長の選出についてですが、帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第3条第6項の規定により、副部会長は、当該専門部に所属する委員及び専門委員の中から部会長が指名することとされています。吉田部会長より副部会長の指名を言付かっております。副部会長には、吉村委員を指名したいと思います。吉村委員、皆さまよろしいでしょうか。

(異議なし)

○事務局

これより議事進行は、帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第3条第7項により、吉村副部会長に議事の進行をお願いいたします。

議事(3)

○副部会長

それでは会議に入らせていただきます。(3) 前回会議の議事録(案)の確認について議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

(異議なし)

○副部長

質問等がなければ、議事録はこれで了承されました。

議事（4）

○副部長

（4）令和5年度 健康推進課決算について議題といたします。事務局から、説明願います。

○事務局

資料2 令和5年度 健康推進課関係決算の概要について、ご説明させていただきます。総事業費は、14億9,301万2,189円でございます。内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額 4億1,869万8,631円となっております。主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、健康まつりの負担金、難病連十勝支部の事業への補助、健康づくりガイド作成、AED 貸借、心身障害者歯科治療費補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、各種教室の開催等、また、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。

次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理です。

なお、看護師等養成機関確保対策費、帯広厚生病院運営費補助事業費については従前より地域医療部会、妊婦・乳幼児健康診査費、母子保健相談指導費、心の発達支援事業費、食育推進事業費については、従前より児童育成部会で説明していることから当部会においては、決算額のみお示しすることとさせていただきます。

次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額8億7,888万7,594円となっております。主な事業といたしまして、「がん検診・健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう症検診等、女性特有のがん対策事業として、乳がん月間における啓発のピンクリボンイン帯広、乳がん子宮がん予防キャラバン等での検診の周知、普及啓発の取り組み、中学生へのピロリ菌尿中抗体検査の実施等に要する経費です。「予防接種費」として各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」としては、季節性インフルエンザ予防接種や新型コロナウイルス予防接種等を実施しております。

「健康相談費」として、保健師や栄養士などにより、電話や面接にて健診の結果説明や生活習慣改善の相談、その他からだやこころの相談の実施、「健康教育費」として、出前健康講座などの各種健康講座、働き盛りの健康づくりを推進するためスマートライフプロジェクトへの企業の登録や、歩数計機能付きアプリを活用した健康マイレージ事業を行っています。また、「自殺対策事業」として、生きるを支える連携会議の開催や、多分野合同研修会、ゲートキーパー養成講座などの各種講座の実施をとおして、地域におけるネットワークや人材育成の強化のほか、自殺予防に関する普及啓発を行ってきました。「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、「保健・介護一体的実施推進事業費」として、令和5年度の新規事業として後期高齢者を対象とし、糖尿病重症化予防のための保健指導やフレイル予防の健康講座などを実施しました。

次に、「夜間急病診療費」は決算額1億6,844万8,047円でございます。主な事業としましては「休日夜間急病センター管理運営費」「救急医療対策費」等です。

最後に、保健福祉センターの管理運営に要する「保健福祉センター費」は、決算額2,697万7,917円となっております。数字横の、矢印表記につきまして、前年度決算対比での増減を表しております。増減10%以上の事業のうち、健康づくり支援部会に係る主要なものについて、ご説明いたします。

まず、左上の「保健衛生推進費」につきましては、10.6%の増となっております。こちらは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年度以降中止としておりました「健康まつり」を、通常開催したことや、健康づくりガイドの資材高騰により増加したものです。

次に、資料中央の「感染症予防費」については、51.7%の減となっております。こちらは「新型コロナウイルスワクチンの接種件数が減少したこと等によるものです。資料中央の下段「自殺対策事業費」につきましては、10.8%の増となっております。こちらは、消耗品費と講座の報償費が増加したものです。以上、令和5年度決算の概要でございます。

○副部会長

ただいまの事務局説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

(特になし)

議事(5)

○副部会長

(5) 令和5年度 保健事業について議題といたします。事務局から、説明願います。

○事務局

令和5年度保健事業についてご説明いたします。健康づくり支援部会においては、当部会の所掌事項のみ説明させていただきます。

資料3の1ページ目の「1.保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

(1) 事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。令和5年度の利用件数は前年比約0.6%の増とほぼ横ばいですが、利用者数は、新型コロナワクチンの集団接種会場としての利用がなかったことなどにより、17.5%の減となっております。

(2) 各種相談の利用状況では、相談内容により増減はありますが、ことばの教室に係る相談件数が多く、合計では、令和5年度より846人の増となっております。

次に、2ページ目の3 生活習慣病の予防をご覧ください。

(1) 健康教育の実施状況について、令和5年度は、実施回数、参加人数ともに新型コロナウイルスの感染拡大前の数へと復調傾向がみられます。

(2) 健康づくり講座、教室については、ランチ&運動つき健診教室は、栄養バランスがととのった食事の試食と栄養講話、手軽な運動を行いました。糖尿病の発症予防に関しては、講座や個別面談を実施し、パネル展も開催しました。糖尿病の重症化予防につきましては、令和5年度より保健・介護一体的実施推進事業として、後期高齢者を対象に追加し、原則来所による面談とし、個別の保健指導に取り組みました。歩数計機能付きスマートフォンアプリを活用している「健康マイレージ」事業は、令和6年3月末時点で4,458名が参加しています。働き盛りの健康づくりの推進を行う、スマートライフプロジェク

トの登録企業は、令和6年3月末時点で99件となりました。

(3) 健康相談については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い感染症に関する健康相談が減少したことにより、令和4年度より相談件数は減少となっております。

3ページをご覧ください。

(4) 訪問指導につきましては、令和4年度に比べ、実・延べ訪問者数ともに増加しています。

(5) 検診の実施状況であります、受診者数は、ご覧のとおりとなっております。

がん検診については、受診者数が減っている検診もありますが、対象者も減少していることから、前年度と比べると、胃がんと肺がん検診を除く検診で受診率が上昇しています。

(6) 検診・検査の実施状況健診事後指導については、令和5年度は524件であり、前年比62件の減となっております。

4ページをご覧ください。

4「自殺対策」につきましては、関係機関や市職員等を対象に「家族から当事者へつながるためのひきこもり支援」、「こころの病いのある人を地域で支える」をテーマに、多分野合同研修会を開催しましたほか、ゲートキーパー養成講座やSOSの出し方教室を実施しました。総合相談会につきましては、帯広市自立相談支援センター等9つの関係機関が連携し「第10回しごと・くらしの合同相談会」を開催しました。スマートフォンやパソコンを利用したメンタルセルフチェックシステム「こころの体温計」のアクセス数は令和4年度と比べて減少しています。

令和5年度保健事業についての説明は、以上でございます。

○副部会長

ただいまの事務局説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

(特になし)

議事(6)

○副部会長

(6) 第二期けんこう帯広21の実施状況について議題といたします。事務局から、説明願います。

○事務局

資料4-1をご覧ください。

第二期けんこう帯広21の最終評価は昨年度終えておりますが、現状の成果や課題を把握しながら令和6年3月に策定しました「第三期けんこう帯広21」を推進していくために、令和5年度の実績と自殺者の状況及び自殺対策計画進捗状況調査を実施しておりますので、結果について報告させていただきます。

尚、令和4年度最終評価を行う際に実施したアンケートは令和5年は実施しておらず、記載はございませんのでご了承ください。

令和5年度実績報告について、糖尿病対策(重点課題)の項目では、「糖尿病有病者の増加の抑制」「メタボリックシンドロームの該当者の割合」がベースライン値より悪化しています。「血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合」に関しては、男性が目標値に達しているほか、「特定健診受診率、

特定保健指導実施率」は目標値には至らなかったものの改善傾向となりました。

がん対策（重点課題）の項目では、いずれのがん検診においても受診率は向上したものの、目標値に達しているのは一部のがん検診にとどまっています。

こころの健康対策（重点課題）の項目では、自殺者の割合は前年と比較すると減少しています。

ライフステージ別については、妊娠、出産期及び乳幼児期では、4つの指標すべてにおいて目標値に達した、または近づいています。学齢期では、「軽度以上の肥満傾向児の割合」が最も高かった令和3年度からは減少傾向にあります。目標に達していない状況となっています。青年期では、「虚血性心疾患のSMR」や「脂質異常症の増加の抑制」など循環器系疾患の項目がベースライン値よりも悪化しています。

結果として、令和5年度にとりまとめた最終評価における内容と相違ないものであり、糖尿病、がんについては、第三期計画においても引き続き重点課題として課題解決に向けた取り組みを進め、今後も生活習慣の改善、発症予防・重症化予防につながるよう市民の健康に関する意識を高め、自ら取り組むきっかけの創出や持続できる環境整備を推進していく必要があるものとなっております。

次に、資料4-2をご覧ください。

令和5年度における自殺者の状況及び自殺対策計画進捗状況調査の結果について説明させていただきます。帯広市の令和5年の帯広市の自殺者数は31人、人口10万人対の自殺死亡率は18.9であり、ともに前年より減少しています。年代別の自殺者数では、令和3年以降、20歳台から50歳台の割合が高い傾向にあり、令和5年においても全体の7割を占めております。また、令和5年の職業別自殺者割合は、令和4年と比較して有職者が増加しており、若年層や働き盛り世代のメンタルヘルス対策として、職域との連携が必要と考えております。

計画に掲載している事業では、AもしくはB評価となった事業が令和4年度96事業から令和5年度101事業に増加し、そのうち12事業が前年度よりも高い評価となりました。C評価となった事業は令和4年度14事業から令和5年度8事業と減少しており、総合的に、目標に向かって順調に進捗したものと捉えています。その要因として、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症となり、感染予防の観点から中止・縮小していた事業が再開されたことや、市民の活動が増加したことによって計画どおりに実施できた事業が多いことが考えられます。また、ホームページやSNS、イベントを活用した周知や、オンライン形式、eラーニングを活用した人材育成など、令和4年度に引き続き実施方法を工夫しながら取り組みを推進したことも、成果に繋がったものと考えます。

一方で、高齢化によるボランティアの減少、担い手不足が課題として挙げられているほか、一部の事業では活動自粛の影響が続いており、市民の参加が思うように進んでいない現状があります。参加しやすい実施方法の検討や、対象に合わせた情報発信の工夫により、若い世代を含めた市民全体の主体的な活動を促していくことが必要となっています。

結果として、令和5年度における現状および課題は、帯広市自殺対策計画（第一期）の最終評価と相違ないものであり、今後は、第二期自殺対策計画となる「帯広市生きるを支える推進計画」に基づき、庁内各部署や関係機関等と連携・協働を図りながら、取り組みを推進していきます。

○副部長

ただいまの説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

(特になし)

議事(7)

○副部会長

次に(7)その他について、委員、事務局から何かございますか。

(特になし)

○事務局

次回の健康づくり支援部会の日程につきましては、例年2月に予算等をご説明するため設定させていただいているところではありますが、吉田部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○副部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。本日は、これで閉会といたします。お疲れ様でした。